



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
81

岩村町秋祭行事

数百年続く行列



▲行列は総勢約 300 人にも及ぶ

ひとロメモ

行列では、古式にのっとり平安朝期の衣装、直衣、烏帽子を着用した 14 人が雅楽を奏で、渡御を一段と荘重なものにしていく。1854 (安政元) 年、岩村藩主松平乗喬から許しがあつて、雅楽を演奏するように若者連中に達しがあつたのが始まりという。

岩村町の八幡神社と武並神社を結ぶ父子対面をテーマとした祭り。八幡神社には岩村城創築の祖加藤景廉、武並神社にはその子遠山景朝が祭られ、景朝が武士の神、景朝が町人の氏神とされていた。秋祭の神輿渡御行列は数百年にも及ぶ。76 役、総勢 300 人が行列を成し、景朝の乗った神輿を奉じて武並神社を出発。城下町を歩いて父景廉の元へ向かう。一夜を過ごして、翌日は再び神輿を奉じて武並神社へ還御する。1631 (寛永 8) 年、岩村藩主松平乗喬が、武並神社を壮大な社殿に建て替えたのを機会に始めたといわれる。



▲平安時代の衣装をまとい雅楽を奏でる

菊ごぼう

シャキシャキの食感

えな自慢
82



▲甘辛い味付けが癖になるこの地方の特産品

ひとロメモ

栄養的には、タンパク質、糖分、炭水化物、繊維質が多く含まれ、滋養強壮の効果があることから、その昔、年貢として納められたこともある。江戸時代の末期 (慶応) のころには、すでに「菊ごぼう」の名称でみそ漬けが行われていたといわれている。

シャキシャキの食感と甘辛い味付けが癖になるこの地方の特産品。キク科アザミ属に分類される植物で、山野に自生していた「モリアザミ」を栽培したもの。一般的にはヤマゴボウと呼んでいるが、切り口が菊の花に似ていることから、この地域では通称菊ごぼうと呼ぶ。恵那市、中津川市が主な産地。1862 (文久 2) 年、美濃国恵那郡本郷村 (岩村町) の三森山で見つかった根の太いモリアザミが原種となっているが、本格的な栽培は明治以降。独特の風味と香りがあり、柔らかく歯ごたえが良いのが特徴。地元では、すき焼き、鍋物などの具としても使用するが、みそ漬けやしょうゆ漬けがこの地方の特産品として販売されている。



▲根の太いモリアザミの原種が見つかったという三森山

次号は 10 月 15 日号
発行日は 10 月 15 日 (月) です

広報えな No.183
2012 年 (平成 24 年)
10 月 1 日発行

発行 恵那市役所 / 編集 企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目 1 番地 1
☎ (0573) 26-2111 / ☎ 25-6150 / (IP 電話) 050-5808-9521
http://www.city.ena.lg.jp/ ☒ info@city.ena.lg.jp

『広報えな』10 月 1 日号、1 部当たりの印刷経費は約 11.0 円 (税込み) です。



◀市安心安全メール配信システム (登録用 QR コード)
市 WEB 版文字放送システム (閲覧用 QR コード)
□お問い合わせ 防災情報課 (内線 317)



『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。

